

# アンケート事業報告書

調査資料部 田籠慶一

今年度のアンケート事業について、以下に報告いたします。報告内容は、1.アンケート回収率、2.会員動向に関する基礎的データ、3.会員の意識調査、の3点です。

## 事業概要

対象は休会者を除く全会員であり、郵送にてアンケート用紙を配布した。回答方式はマークシートで、返信用封筒にて回収後、印刷会社（株式会社ひまわりぷりんと）に依頼し集計を実施した。アンケート設問冊子は全43問7ページであった。内訳は共通設問が21問、会誌編集部より8問、介護医療保険部より14問であった。

以下に、調査資料部が担当した共通設問について結果を報告する。設問内容は表1に示す通りである。

表1. 共通設問

- 問1. あなたの年齢は？
- 問2. あなたの性別は？
- 問3. 配偶者はいますか？
- 問4. 理学療法士の資格取得後、経験年数は何年目ですか？
- 問5. 現在の職場での勤続年数は何年目ですか？
- 問6. 役職に就かれていますか？
- 問7. 主な職場での年間所得(税込)はおおよそどれくらいですか？
- 問8. 今のあなたの職場での、理学療法士として自身の年間所得は妥当なものと思いますか？
- 問9. 問7で『2』と答えた方はいくらが妥当だと考えますか？具体的な金額をお書きください。
- 問10. 最終学歴は次のうちどれにあたりますか？
- 問11. あなたが現在所属する主たる職場は次のうちどれに当たりますか？一番近いものをお選びください。
- 問12. 問11で『病院に所属している』とお答えの方にお聞きします。
- 問13. あなたの現在勤務する職場の施設基準は以下のどれですか？該当する項目をすべてお選びください。
- 問14. あなたの所属するブロックはどこですか？
- 問15. あなたは大阪府理学療法士会の事業・活動内容をご存知ですか？
- 問16. あなたは大阪府理学療法士会の事業・活動内容をどのような手段で知りますか？
- 問17. あなたは大阪府理学療法士会の事業・活動内容に満足されていますか？
- 問18. あなたが大阪府理学療法士会の事業・活動で特に充実させてほしいことは何ですか？
- 問19. あなたは大阪府理学療法士会の年会費の金額についてどう思いますか？
- 問20. 問19で『1』～『4』と回答された方にお聞きします。年会費はどのくらいが妥当だと思いますか？
- 問21. その他、大阪府理学療法士会の事業・活動に関し、ご意見などございましたらお書きください。

## 1. アンケートの回収率

アンケートは府士会員 7,448 名に配布し、2,824 名より回答を得た。回収率は 37.9%であった。各ブロックにおける回収率を図 1 に示す。回収率が 40%を超えるブロックは豊能、大阪市北ブロックであった。35%を下回る回収率は三島、北河内、中河内ブロックであった。

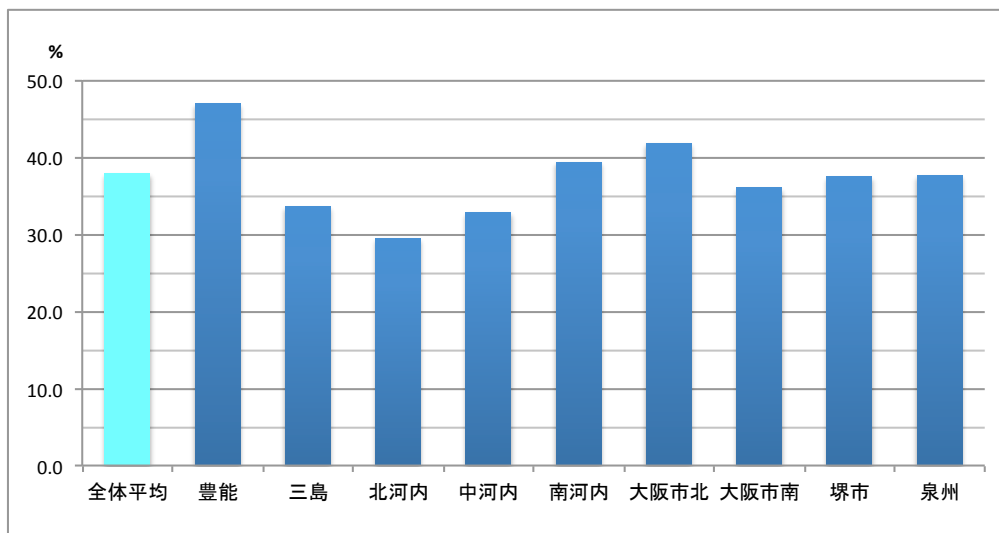


図 1. 各ブロックの回収率

## 2. 会員動向に関する基礎的データ

前年度までの流れに従い、会員動向に関する下記の基礎的データを得た（表 1、問 1~14）。

### 1) 会員構成

#### 【現況】

会員構成を年代別にみると、20 歳代が 43%、30 歳代が 34%、40 歳代が 17%となっており、これらの世代で全体の 94%を占めた（図 2）。

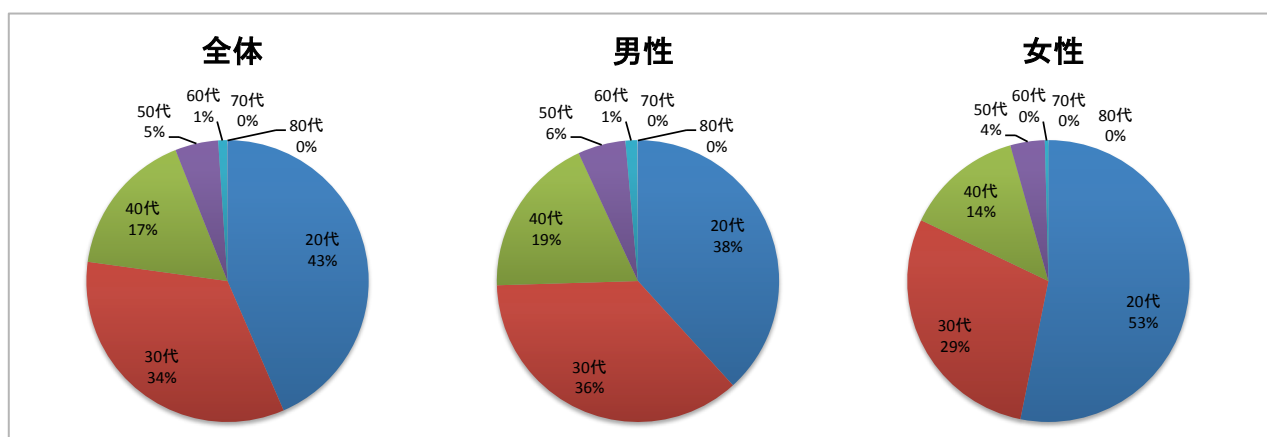


図 2. 会員構成

### 【会員構成の協会システムとの比較】

アンケートに基づいた会員構成（年代、男女比など）が実際と異なるかを確認するため、協会システムより出力可能な「年齢性別会員数」と比較した。

協会システムによる府士会員総数は 8,193 名（休会者も含む）であり、年代構成はアンケートにより得られたものほとんど変わりはない（図 3）。ただ、性別で分けると女性は協会システムに比べアンケート調査では 30 歳代と 40 歳代の割合が低いことがわかる（図 2,3 女性）。これは、この年代の女性の回答者が少ない、または休会者が多いことによるものと推察される。よって、アンケート結果の解釈においてはこの年代の女性の割合が低いことを留意しておく必要がある。

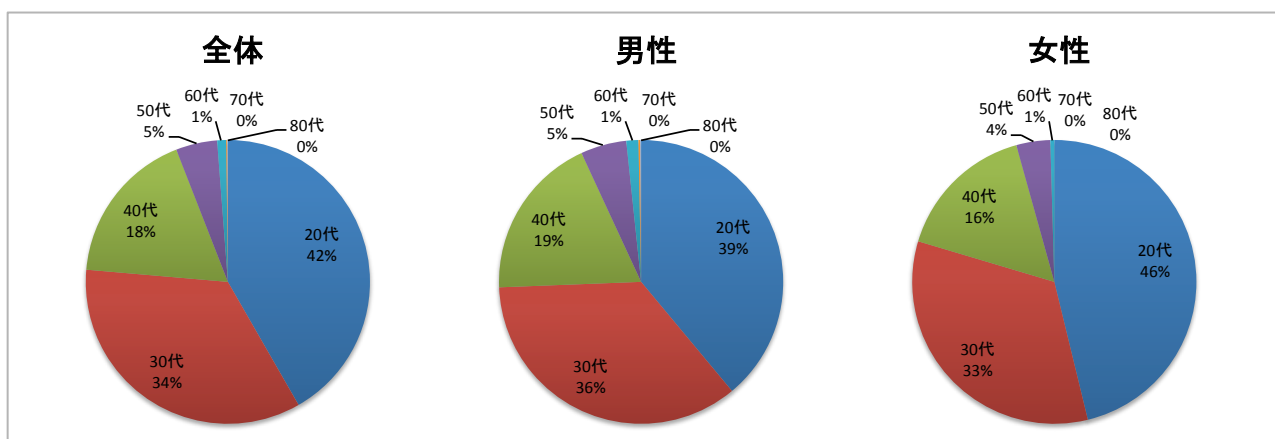


図 3. 協会システムによる会員構成

### 【男女比】

男女比は、全体では男性 65%、女性 35%であった（協会システム：男性 62%、女性 38%）。年代別にみると 20 歳代では男性 57%、女性 43%であったが、30～50 歳代では女性が 28～30%（協会システム：31～36%）であった。また、男性は 30 歳代以降に配偶者有りが多数を占めるのに対し、女性は配偶者有りの割合は高くはならなかった。

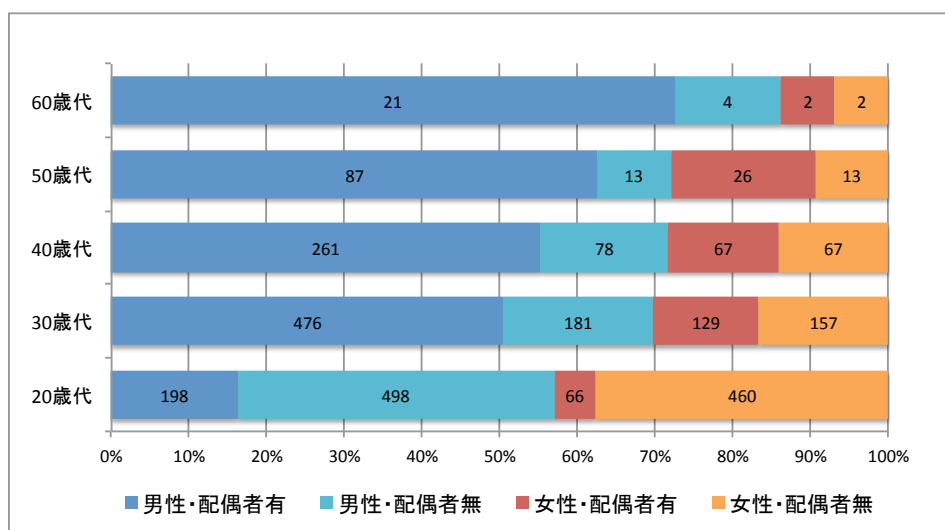


図 4. 男女比および配偶者の有無

### 【役職率】

役職率を年代別にみると、20歳代では10%に満たないが、30歳代では約36%、40歳代になると約56%を占めている（図5）。

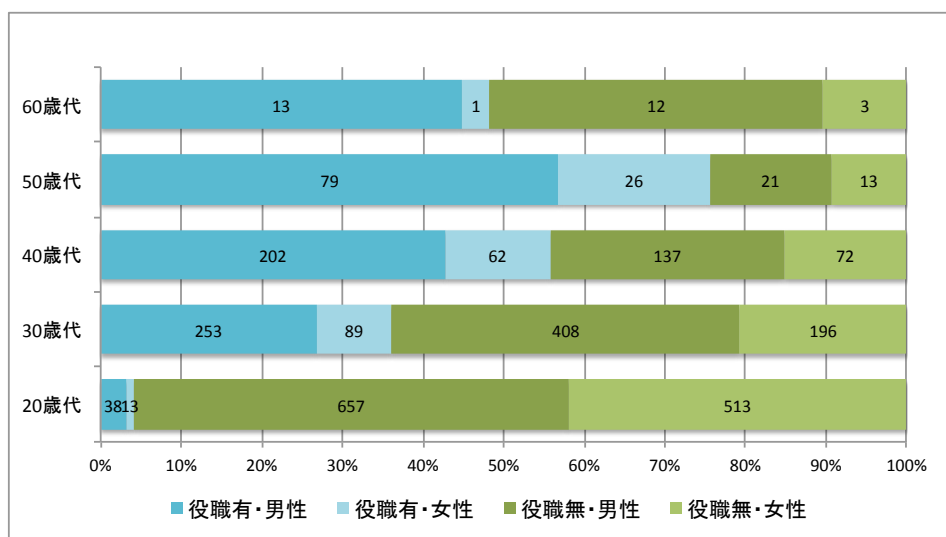


図5. 役職の有無

## 2) 過去5年間の動向

### 【会員構成】

過去5年間の年代別会員数の動向をみると、20歳代の割合が徐々に減少する傾向がみられた。一方で、40歳代の割合は少しずつ増加する傾向がみられた（図6）。

男女比は、大きな変化はなかった。

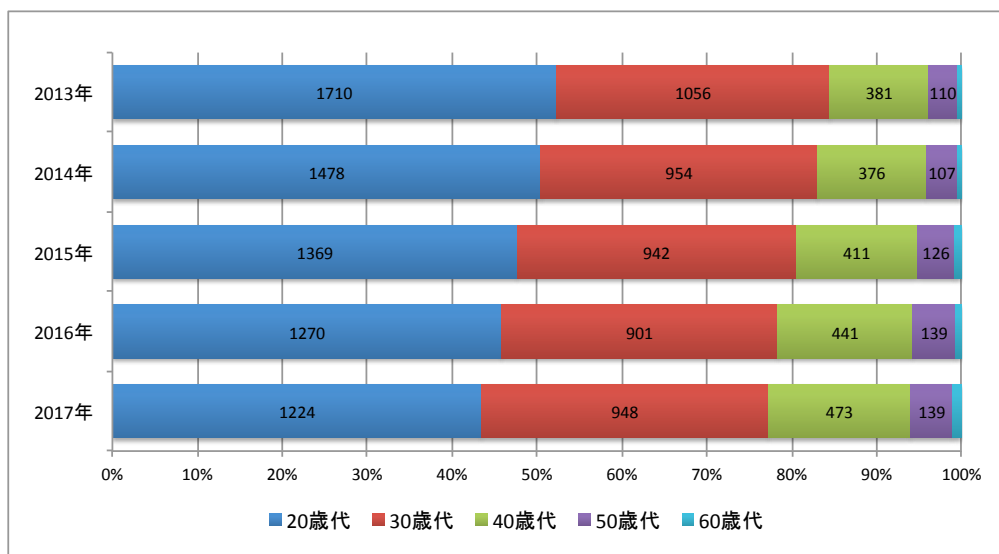


図6. 過去5年間の会員構成の推移

## 【所属先】

過去 5 年間ににおける所属先の動向として、回答数の上位 10 所属を照合したが、大きな変化はみられなかった。表 2 は昨年度との比較である。

表 2. 所属先

2016年		2017年	
所属先	総数	所属先	総数
① 一般病院	1,386	① 一般病院	1,409
② 地域医療支援病院	361	② 地域医療支援病院	386
③ 特定機能病院	258	③ 特定機能病院	257
④ 診療所	174	④ 診療所	155
⑤ 介護老人保健施設	142	⑤ 訪問看護ステーション	133
⑥ 訪問看護ステーション	124	⑥ 介護老人保健施設	122
⑦ デイケア・デイサービス	73	⑦ 大学・短大（養成校）	81
⑧ 大学・短大（養成校）	70	⑧ デイケア・デイサービス	63
⑨ 専門学校（養成校）	44	⑨ 専門学校（養成校）	45
⑩ 肢体不自由児施設	24	⑩ 小児病院	30

## 【その他】

その他の基礎データとして、最終学歴、勤続年数、年収、所属施設の施設基準および病棟の調査を実施したが、過去の調査と比較して大きな変化はなかった。

### 3) 考察

現在の会員構成をみると、20 歳代から 40 歳代までが 94%を占めており、これは会員システムと同様であり、この傾向は今後も続くと考えられる。一方、過去 5 年間の動向をみると 20 歳代の占める割合が減少し、40 歳代の割合が増加する傾向がみられた。これは、アンケートに回答する会員が固定されており、会員数の増加に対し 20 歳代の新たな回答者が増えていない可能性が考えられる。よって、アンケート事業においても、他の府士会活動においても、その意義が 20 歳代の会員にも十分に伝わるよう情報発信方法や内容の工夫が必要であると思われる。

また、30 歳代以降は女性会員の割合が減少しており、結婚や出産・育児などの様々なライフイベントがキャリアに影響していることが考えられる。実態を調査するとともにキャリアの維持・復帰を目指す会員に対するサポートも必要である。

役職の有無については、30 歳代でもすでに 30%以上に役職があり、スタッフが少数の施設では、比較的年齢が若くても役職につくケースも多いと思われる。求められるのは職場内での管理業務だけではないため、リーダー研修やミドルマネジメント研修などに早い段階から関心を持ってもらい、他施設や地域との連携をサポートしていく必要があると思われる。

### 3. 会員の意識調査

本年度は、府士会の事業および活動について、また年会費に関する意識調査を実施した（表 1、問 15~21）。

#### 1) 事業・活動の周知度

回答者全体としては周知度の割合は 50%であった。20 歳代では 40%未満であったが、30 歳代になると 50%を超え、年代が上がるにつれ高くなった（図 7）。

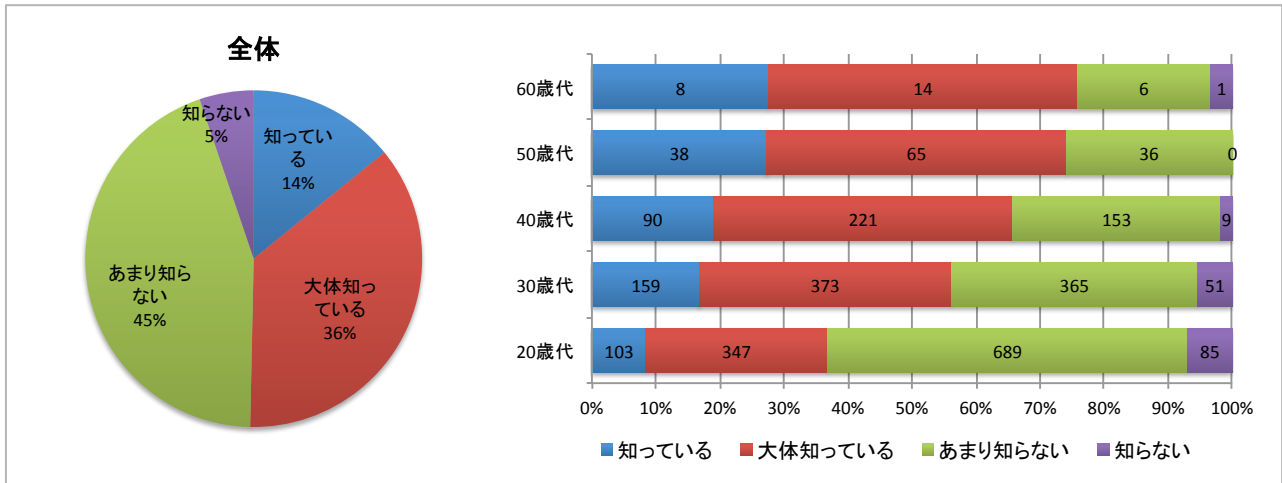


図 7. 府士会事業・活動の周知度

#### 2) 事業・活動に対する満足度

周知度の低い 20 歳代ではどちらでもないとの回答が約半数を占め、満足・どちらかという満足と回答した割合は約 34%であったが、年代が上がるにつれ満足度も上がる傾向がみられた。不満・どちらかという不満と回答した割合は 20~50 歳代において 20%未満であった（図 8）。

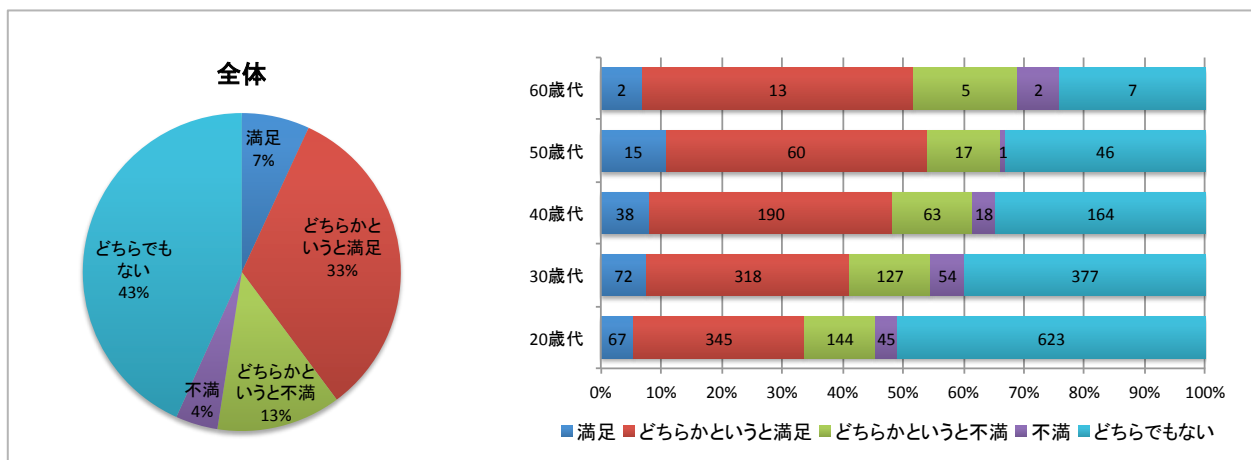


図 8. 府士会事業・活動に対する満足度

### 3) 事業・活動を知る手段

周知度の低い 20 歳代は、府士会ニュースの他にホームページや職場・周囲の知人から情報を得ている割合が約 20%であり、他の年代よりも高かった。30 歳代以上では 70%以上がニュースで情報を得ていると回答した（図 9）。

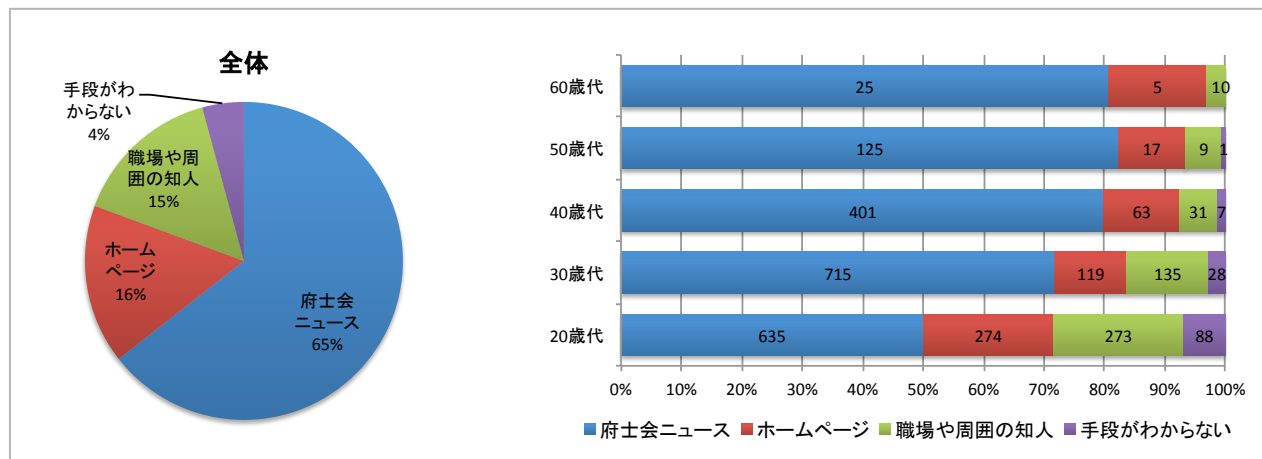


図 9. 府士会事業・活動を知る手段

### 4) 充実させてほしい事業・活動

全体として社会的地位の安定・向上との回答が最も多く、次いで研修会や学会大会の開催が多かった。回答者の 9 割を占める 20 歳代から 40 歳代において、社会的地位の安定・向上との回答が約 30%を占めた（図 10）。

その他自由記載欄のコメントとしては、認定理学療法士の地位向上、会員同士のネットワーク、地域連携や地域での活動、理学療法教育・質の向上、職域拡大、ホームページの充実などの意見があった。

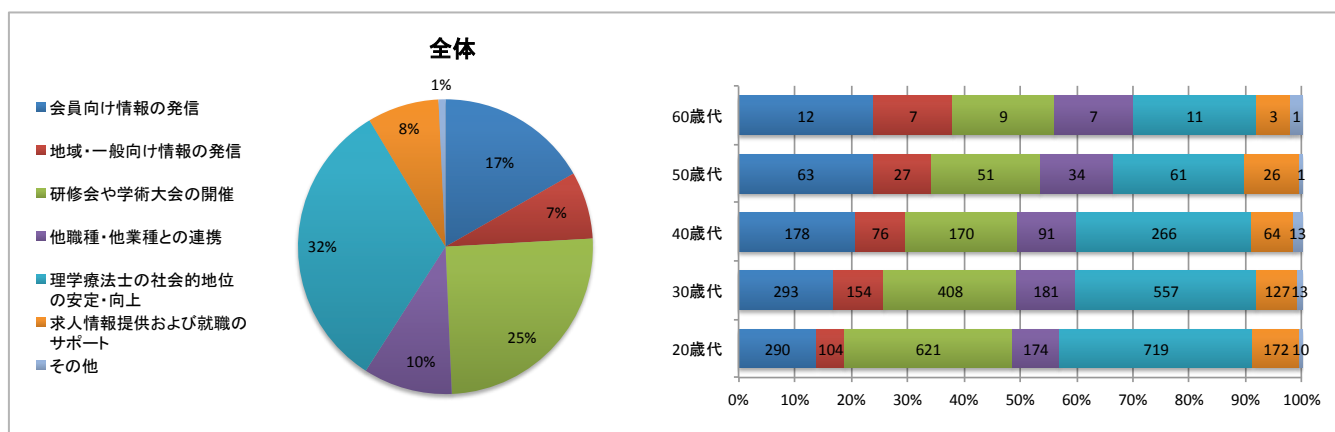


図 10. 充実させてほしい事業・活動

## 5) 年会費について

### 【金額についてどう思うか】

全体として、高い・やや高いとの回答が約 80%と多く、妥当との回答は約 20%であった(図 11)。

### 【妥当だと思う年会費の金額】

妥当だと思う金額は、5,000～6,000 円との回答が 60%以上を占めた(図 11)。

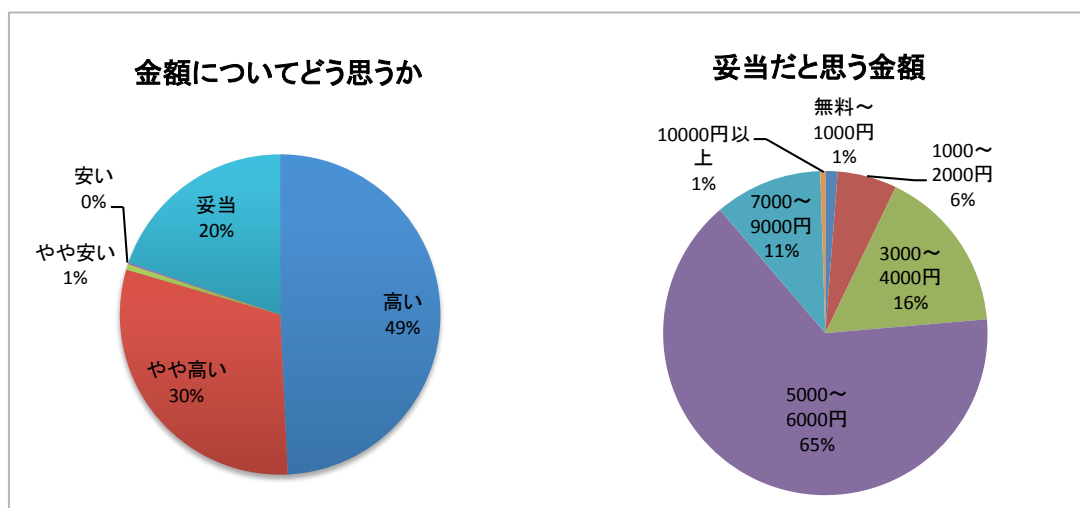


図 11. 年会費の金額について

## 6) その他の府士会活動に対する意見（自由記載）

府士会の事業・活動に関する意見としては、会費が高い、電子化や郵送物の削減による経費節約、研修を増やしてほしいなどの意見が多くみられた。また、地域参入により理学療法士の地位向上や他職種連携を後押ししてほしいとの意見も多数みられた。

## 7) 考察

今回の意識調査では、活動の周知度や満足度がどうなのかをまず検討した。その結果、20 歳代の会員においては 6 割以上が府士会の活動を「知らない」「あまり知らない」と回答しており、それが満足度での「どちらでもない」との回答に結びついていると思われる。加齢に伴い周知度が増すにつれ、満足度も上がる傾向があるということは、活動内容への不満があるわけではなく、知れば納得するという印象を受ける。したがって、新人教育プログラムやそれ以降の早い段階から府士会の活動内容や会員であることの意義を周知してもらうべく十分な情報提供が必要と思われる。

また、充実させてほしいこととして、20 歳代は研修会などの開催も多かったが、社会的地位の安定・向上が各世代において最も高かった。これは、働く環境や所得への不満、医療・介護保険制度への不安があることが考えられ、社会情勢や保険制度などの情報発信とともに地域や会員同士の連携を強化し、会員一人一人の行動を後押しできれば、不安の軽減にもつながると思われる。



今回は年会費についても意識調査を実施した。事業内容の周知の問題に加え、協会の年会費と同額ということもあり、現状の活動内容では高いと感じている会員が 8 割近くいることがわかった。この理由として、自由記載の意見などから、金額に見合うサービスを受けている実感が無いというだけでなく、活動内容に無駄が多いと感じている会員も多くいることが挙げられる。もっと効率化を進めてコスト削減し、年会費の減額につなげてほしいという意見も少なくなかった。これらの意見はもっともな指摘であり、約 8,000 名の会員に会費の金額を妥当と感じてもらうためには、活動の効率化を図り、必要なサービスを充実させるとともに、運用の透明性を保って会員の理解を得ることが重要であると考えられる。

## まとめ

アンケート回収率は年々低下傾向にある。その理由は、調査結果が反映されて会員自身に還元されているという実感が無いため、また若い世代の新たな回答者が増えていないためと考えられる。20 歳代の会員は当然府士会の事業や活動の全体像はよくわかっていないが、言われるがままにすでに活動に参加している人も多い。一方で、言われる人がいなければ府士会に所属しながらも関係ないと無関心になってしまうという、どちらにも転び得る状況にあると考える。このような若手の会員に対し、府士会の事業を活用することが自身の理学療法士としてのキャリア形成につながるというわかりやすい道筋を初期段階から提示することが大切ではないかと思う。

アンケートの目的は、府士会事業を進める上での会員の実態把握とフィードバックである。昨今では、医療・介護保険制度などの社会背景の変化や科学技術の発展に伴い、理学療法士を取り巻く環境や働き方も変化している。会員の動向の調査に関しては、社会的な流れを質問に反映させ、そのような実態を把握するとともに、経年的に分析して変化を捉えていく必要がある。その上で、インターネットの活用など調査方法についても効率化していかなければならない。また、意識調査は事業や活動へのフィードバックになる。各部・ブロック・委員会は、会員のニーズの収集や各活動に対する評価などを得るためにアンケート調査を活用すべきと考える。